

# 三好丘中学校区人権教育総合推進地域事業だより

—三好丘中・三好丘小・黒笹小—

## スクラム

三好丘中学校区人権教育推進委員会

平成30年10月19日 NO, 6



### 全校児童の心が通う「なかよし集会」

三好丘小学校では、児童会主催のなかよし集会を年2回、行っています。なかよし集会では、6年生が中心となって司会運営をし、1～6年生児童と一緒に遊び、交流を深めています。異学年で活動することを通して、望ましい人間関係（アサーション）を形成することも大きな目的として行っています。

今回のなかよし集会では、「人間間違いさがし」「消しゴム君の大冒険」「漢字リレー」の3つのゲームを行いました。6年生がリーダーシップをとり、協力しながら会を進める姿に頼もしさを感じました。

最初は、初めて顔を合わせた子もいて、緊張している様子が見られましたが、6年生の優しい声かけのおかげで、次第に表情が和らぎ、一緒に盛り上がり、楽しく交流したりできるようになりました。集会後に子どもたちが書いたありがとうカードからも、ゲームが楽しかった様子や、6年生への感謝の気持ちがかかれている感想が多く見られました。

このなかよし集会を通して、これまで以上に学年を越えたつながりが築かれ、本校児童の仲がより深まり、心が通い合うようになることを願っています。  
(児童会担当 飯田 孔明)

るいくんへ

いっしょに遊んでくれてありがとう。わたしは、たくさん遊べてうれしかったです。一番楽しかった遊びは、消しゴム君の大冒険です。

2年1組 アフリン アフィア

6年生のみなさんへ

今日のなかよし集会で3つのゲームを考えてくれて、ありがとうございます。人間間違いさがしが一番楽しかったので、またやりたいと思いました。これからもよろしくお願いします。

2年3組 廣瀬 優香

6年生へ

みんなでやれるゲーム楽しかったです。わたしが一番楽しかったのは3つ目の遊びです。わたしが6年生になった時の見本になりました。

3年1組 小嶋 美月

6年生のみなさんへ

いろいろな遊びを考えてくれてありがとうございます。とても楽しく遊べました。6年生のみなさんありがとうございました。

3年3組 佐藤 玲菜

2時間目になかよし集会がありました。人間間違いさがしは、みんな楽しそうにやっていました。消しゴム君の大冒険は、低学年が飛ばすのが難しそうでした。漢字リレーは、みんながじゃんけんで盛り上がり楽しそうでした。下級生が楽しそうに遊んでいてよかったです。

6年3組 安田 快利



【 6年生が前に出て司会を務める様子 】



【 人間間違いさがしをする様子 】



## 何があってもいじめはいけないこと

9月28日に、愛知県弁護士会より二人の弁護士の方をお招きし、「いじめ予防出張授業」を開催しました。授業を受けたのは6年生の2クラス。弁護士の方たちは、「日常の業務としていじめの相談を受けます。いじめの相談の大半は、いじめがひどくなってしまってからのもので。そこで、取り返しがつかなくなる前に、いじめについて児童・生徒のみなさんと一緒に考え、いじめを減らしたいと思い出張授業を始めました」と授業のねらいを話しました。

授業では、いじめた側にその自覚がないことや、周りの子どもたちも自分には関係がないという意識であることについて、ドラえもんの登場人物であるジャイアンとのび太、スネ夫やしずかちゃんを通し、意見を交わしながら学びました。ある場面では、ジャイアンがのび太に嫌がらせをしながら「お前だって弱いものいじめしていたじゃないか」と迫ることについて考えました。初めは「のび太もいじめていたのだからどっちもどっちなんじゃないかと思っていた」「場合によってはいじめといえないと思う」といった考えが出されました。しかし、弁護士の方から取り返しのつかなくなったいじめの事例を示され、「いじめは何があってもいけないこと」という考えに行き着きました。さらに、周りで見えていたスネ夫やしずかちゃんの立場について「いじめを見たら、自分で止めることができないとしても、大人の人に相談していじめがなくなるようにしたい」「一人一人が友だちのことを思いやって、いじめの無い学校生活を送れるようにしていきたい」と感想が出ました。

「言葉は人を嫌がらせるためにあるのではない。言葉を大切にしたい」…授業後の感想用紙に書かれたこの言葉が印象的でした。  
(6年生主任 石井 摂絵)



【「何があってもいじめはいけないこと」…  
考えを深めることでたどり着いた結論です。】

## 歌声で届ける心

毎年、この時期になると校舎のあちこちから聞こえてくる歌声。合唱コンクールの季節になりました。今年もきれいなハーモニーが学校を包み込みます。各学級で歌いたい曲を決め、練習を重ねてきています。ただ学級で練習をするだけでなく、他の学級と歌い合ったり、他学年との縦割り練習をしたりしています。「先輩の歌声は迫力があって、聞いているとその世界に引き込まれる感じがした」「足を開くタイミングが合っていて心が一つだと感じた」「元気があって気持ちが伝わってくる」と感想を交換することで、後輩が先輩にあこがれを抱き、先輩は後輩に合唱のすばらしさを姿で示しています。合唱コンクールを通して、仲間を認め、称え合うことで温かい心が育っていきます。合唱コンクール当日には、大切に育んできた心を歌声にのせてお届けします。  
(研究主任 林 勝也)



【他学年と歌い合う様子】



【感想を伝える様子】



【気持ちを込めて歌う様子】